

宮市)において開催された。口頭64件、ポスター7件の計71件の一般研究発表、および4件の特別研究発表が行われ、この他に同時開催された研究部会で4件の研究発表がなされた。人口関連分野については、例年に比べ少なかったが、以下のように多岐にわたる報告がなされた。

- 「組願書と宗門人別帳からみた武家地の住民把握と人口変動」 渡辺理絵（茨城大学・非）
「中国・四国地方における1990～2000年の人口変化と自然・社会条件との関係
—メッシュデータを用いた標高・都市圏規模・公共施設の有無に基づく分析—」
山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）
江崎雄治（専修大学）
小口 高（東京大学）
「香川県栗島における高齢人口の転出入について」 前川昌子（大阪国際大学）
「台湾における移民者問題—増加する外国籍配偶者と地域の協力—」 塩川太郎（中山医学大学）
「2000年合衆国センサスデータ抽出ツールの開発とMANDARAでの地図化」
谷 謙二（埼玉大学）
(山内昌和記)

2007年度（第42回）日本都市計画学会学術研究論文発表会

社団法人日本都市計画学会による2007年度日本都市計画学会学術研究論文発表会は、2007年11月17日（土）・18日（日）、工学院大学新宿キャンパスで開催され、表題に人口の語を含む研究論文としては次の2つが発表された（○印は発表者）。

- 「人口減少と都市構造の変容に関する研究—1970年～2000年までの日本の全都市圏を対象に—」
○金昶基（東京大学大学院）・大西隆・菅正史
「年齢階層別人口の変化に着目した郊外住宅団地の持続可能性の分析—広島市の郊外住宅団地を対象として—」
○影田康隆（広島大学大学院）・戸田常一

金氏らは、日本国内の都市圏のうち人口減少が起きているものに特に注目し、人口分布の変化のパターンを調べていた。影田氏は、広島市郊外の住宅団地が今後も維持されていくか否かについて、人口および年齢構造の安定性という観点から評価を行っていた。また、これらの発表のそれぞれについて質疑応答が行われた。（今井博之記）